

風に関するシンポジウム(第3回)

共催学会：土木学会，日本火災学会，日本気象学会，
日本建築学会，日本航空学会，日本農業気象学会

日時：昭和31年11月12日(月)，13日(火)
場所：東大理工研会議室(目黒区駒場町856 バス
・渋谷より幡ヶ谷行 上原下車—小田急
電鉄・東北沢—帝都電鉄・駒場又は池ノ
上下車数分)
日程

第1日	摘要	第2日(日時)	摘要
11月12日 午前9.00—12.00	研究発表	11月13日 午前	
午後1.00—5.30	〃	〃午後1.00—3.00	総合講演
		〃 3.00—4.00	映画
		〃 4.00—6.00	懇親会

第1日 研究発表 11月12日(月) 9.00—12.00

- 下層大気中におけるストレスの分布(15分)
鉄研 塩谷正雄
- 風速変動記録乱子模型化する一つの試み(15分)
気象研 根本 茂
- 渦動拡散のメカニズムについて(15分)
お茶の水大理 坂上治郎・松田昌子
- 地表層におけるコリオリの力(10分)
九州大農 武田京一
- 山越気流(第三報)(40分)
気象研 鈴木清太郎
- 瞬間風圧の変化について(15分)
京大工 石崎澁雄
- 風の生気候学的意味について(15分)
気象研 神山恵三
- 耕作物の炭酸ガス同化作用に関する空
気力学的測定(15分)
農技研 井上栄一

- 繫流気球による風向の高度分布並に上昇風下向風の
簡易計算法(20分) 富士重工 阿曾真一郎

午後 1.00—5.30

- 神奈川県内における風速分布(15分)
建築研 亀井 勇
- 人工の砂丘のまわりの風について(20分)
東大理工研 河田 三治
- 起伏地形に於ける圍面の防風について
Ⅱ 地形と風(15分) 名古屋大農 山本 良三
- 大火時の強風(15分)
損害保算定会 亀井幸次郎
- 有限半径の熱源からの上昇気流(15分)
建築研 横井 鎮男
- 有限水面への熱伝達について(温湿地の
研究)(15分) 農技研 三原美秋・内島善兵衛
中村千里・大沼 一己
- 模型防風垣の抵抗係数の測定(15分)
農技研 谷信 輝
- 風の息とその構造に及ぼす影響(20分)
中国電力 島田 兵蔵
- モンテカルロ法による設計最大風速の
推定(15分) 気象研 高橋浩一郎
- 建築物設計用荷重のうち雪と風の組合せ荷重に関する
問題(15分) 東大工 松下清夫・和泉正哲
- 原子力研究所周辺の気流条件について
(15分) 気象庁 佐々木芳治
- 南極における風力発電(15分)
東大工 守屋富次郎

第2日 総合講演 11月13日(火) 午後1.00—3.00

- 乱流理論の展望(1時間) 東大理工研 谷 一郎
 - 台風の話(1時間) 気象庁 伊藤 博
- 映画 午後 3.00—4.00
台風の日およびハリケーンを上映
- 懇親会 午後 4.00—6.00
会費 300円
(風食及び懇親会については当日講演会場に掲示します)

日本の気象

気象学史研究会編著 三二新書一四〇円

地球進化論

天体の発生と発展に関する諸論文
を収集し、特に地球進化についての隕
石理論は、自然現象の科学的、唯物論
的理解を、一そう深いものにした。

本書は理論と実践を通して、日本の科学技術
の性格を明白にした画期的なもの。つまり、
天気図に挑んだ人間の記録ともいえよう。

宇宙旅行

三二新書 一七〇円
シュテルンフェリッド著
高島・島村共訳著

京都市北白川

三一書房

学士院会員
理学博士 岡田武松遺著

世界気象学年表

11月発売 A5判 230頁
子価400円35

晩年の岡田博士が精魂をかたむけて書き綴った
気象年代記ともいべきもので、従来の一覧表
のような無味乾燥な年表と異なり、原論文の要
点を紹介したり、簡潔明瞭な解説を加えたり、
先生一流のユーモラスなエピソードを挿入した
読んでもまた楽しい年表である。前篇は世界気
象学史概観、後篇は1442年から現代まで年代順
に気象学の発達過程を略述した年表から成って
いる。

(日本図書館協会選定図書)

アイソトープ設備と防護
不思議な
アイソトープの働き
放射能汚染と処理

井上武一郎著
A5判 240頁 ¥500

鈴木 嘉一著
B6判 130頁 ¥130

三宅 泰雄著
A5判 180頁 ¥350

東京文京水道橋 地人書館
振替東京1532番

昭和三十一年十一月二十五日発行 毎月一回(二十五日発行) 発行所 一ノ七セ 気象 守内 日本気象学会 印刷所 三報社印刷株式会社 本井佐津太郎 定価 百三十円